

## 仲間と学ぶ宿泊体験教室推進校 諸川小学校

### 1 取組の概要及び成果等

#### (1) 取組の概要

- ①ボランティアなどの社会奉仕に関わる体験活動
  - ・ さしま少年自然の家での清掃活動
- ②自然に関わる体験活動
  - ・ さしま少年自然の家での、プラネタリウム学習
  - ・ 茨城県自然博物館での、生物や自然に関する調査活動
  - ・ ネーブルパークでの、野外体験活動
- ③勤労生産に関わる体験活動
  - ・ さしま少年自然の家及びネーブルパークでの、野外炊飯炊事活動と清掃活動
- ④職業・就業・に関わる体験活動
  - ・ 群馬県スバル工場での、自動車工場の見学

#### (2) 特に工夫や配慮した事項

ネーブルパークでの野外体験活動

<ねらい>

- ・ 友達と長期宿泊をともにした集団生活を体験し、たくさんの活動を通して、強い意志と体を作る。
- ・ 自然の中で、グループ別の野外体験活動を通して、お互いの理解を深めるとともに、楽しい生活を送る。
- ・ 共同生活の中で、責任を果たすこと、力を合わせて働くことを学ぶ。

<工夫点・配慮事項>

- ・ すべてが初めての体験になる、春の宿泊学習では、「宿泊学習とはどんなものか」を学ぶこと、一つ一つの活動に細かい指導を加えながら取り組むようにした。
- ・ 2回目となる夏の宿泊学習では、決められ日程や与えられた活動場所をどのように生かして体験学習をするのかを決定するために、事前指導の段階からより細かな計画を立てるようにした。
- ・ それぞれの活動において、時間時刻を守ることと、安全に注意して取り組むことを指導する以外は、できるだけ子どもたちが立てた計画にしたがって、学習を進めるようにした。
- ・ 活動後には、必ず知り得た情報や感想、反省などを、しおりにメモするようにした。
- ・ グループ活動ごとに指導者を配置し、子どもたちの安全、活動の様子を見るようにした。

<成果>

- ・ グループで立てた計画を実行するにあたって、計画の不備なところやまずかった点を自覚することができた。また、その点を次の活動に活かそうと努力することができた。
- ・ 友達と宿泊をともにすることによって、今までよりもさらに友情を深まり、相手の気持ちを思いやろうとする意識が高まった。

### 2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

#### (1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要整備について

- ① 当該学年で行事の指導にあたるが、行事については、他学年の職員に応援してもらう。
- ② P T A本部役員等にも児童の輸送や、食糧の調達等の協力をいただく。

#### (2) 成果等

- ・ 食材を購入する場合に地元の食料品店を利用したが、グループごとの人数（指導者を含めて）を報告するだけで、食材の分量を量りグループごとに分けて届けていただいた。主食からおかずや調味料までの細かい部分にまで、こちら側のわがままを聞いていただき、配慮していただいた。

- ・ 輸送方法では、人数の関係で2泊目の夜に別の宿泊施設に行かなければならなくなったグループがあったが、観光バスを利用することなくPTA会長所有のマイクロバスで輸送することができ、経費を節約することができた。

### 3 今後の課題と改善点

- 同じ場所を使っただけの宿泊学習を行う場合には、途中で他の場所に移動しての見学や体験学習ができるした方が、興味関心が持続できて、中身の濃い学習ができるのではないか。または、同じ活動場所にゲストティーチャーを呼び、体験学習をしてもよいのではないか。
- 担任は仕方がないが、応援に来ていただける職員の人数を、できるだけ多く確保したい。
- 児童の輸送方法で、観光バスの会社によって金額の差が大きいため、できるだけ早いうちに、バス代の情報交換が必要である。